

I 実践

1 研究主題

他の人とともによりよく生きようとする児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は「ふるさと大久保を愛し、豊かに生きる児童の育成～一人一人が大久保のよさを実感し、共に生きる喜びを膨らませながら、夢に向かって歩む子の育成～」を教育目標として掲げている。学校教育に協力的な地域であり、子供たちは明るく元気である。しかし、相手の気持ちを察する心遣いができるかどうかという課題が残っている。そこで、この研究主題を掲げ、本校の人権教育を進めていきたいと考える。

(2) 研究内容

- ア 豊かな体験活動
- イ 地域の行事への参加
- ウ 人権に関する啓発活動



2 実践内容

(1) 豊かな体験活動

ア 全校参加のあいさつ運動

毎月第1週に、登校時のあいさつ運動を行う。

(6月6年, 7月2年, 9月3年, 10月4年, 11月5年, 12月1年) 普段は恥ずかしがって元気に挨拶できない児童も、クラスの友達と一緒にとなると、上級生にも元気にあいさつすることができ、下級生には優しく声を掛ける姿が見られる。

さらに、11月にはオッズ(親父の会)の保護者も街頭に立ち、子供たちと一緒にあいさつ運動を行う。あいさつの大切さを知り、気持ちのよいあいさつができるようにするとともに児童同士や教師と児童、地域の人との人間関係を築くことができるよう継続して取り組んでいる。(令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止や臨時休校などの関係で5年生のみ実施)

イ スマイルタイム(縦割り班活動)

本校では、縦割り班活動として「スマイルタイム」を設定している。6年生が16グループそれぞれのリーダーとなり、遊びや愛校作業の計画をし、月1回火曜日のロング昼休みに活動している。遊びや作業の中で分からなくなったり、友達とトラブルが発生したりしたときなどは、6年生が説明したり、双方の話を聞いたりして、お互いの立場に立って考えられるようにしている。

ウ 草ぬき隊(園芸委員会の花壇整備を助けるボランティア活動)

7月上旬, 9月下旬, 11月上旬ごろに期間を設けて昼休みに学校の玄関前にある大きな花壇(なかよし花壇)の除草作業をする。ボランティア活動でありながら、たくさん児童がていねいに作業に取り組む。参加した児童には、ミニ賞状がプレゼントされ、中央廊下に隊員名が記録される。(令和3年度は、代表で6年生が7月に実施した。)

エ 福祉体験・いのちの教育(4年生 総合的な学習の時間)

今年はゲストティーチャーを招くことができなかったが、総合的な学習の時間にアイマスクと車いすを使って体験を行った。模擬体験を通して身体の一部に不自由があることでどんな大変さがあるのかを理解し、優しく接したいという思いやりの心を育てることができた。



(2) 地域の行事への参加

ア 大久保交流センター主催の敬老会（1年，2年，6年）

9月に行われる敬老会に，2年生の全児童が，音楽の合奏・合唱の発表と呼びかけをする。また，1年生と6年生の代表児童が作文の発表を行う。（令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

イ よかっぺまつり（4年）

4年全児童が，特設ステージで花笠音頭のダンスを披露し，まつりを盛り上げる。（令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

エ 大久保ふれあいまつり（5年）

11月に行われる大久保ふれあいまつりに，5年生の全児童が参加し，合奏と合唱を発表し，まつりを盛り上げる。（令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止）

(3) 人権に関する啓発活動

1月に全校児童で「人権集会」を行った。運営委員会の児童の企画運営による活動で，当日は運営委員が特別教室からライブ配信を行い，各学級で視聴・参加する形で実施した。SDGsクイズや思いやりについての紙芝居などが行われた。人権とは何か，SDGsとは何かを考える場となった。その日から「大久保人権ウィーク」が始まり，掲示委員会の児童によって，友達からの思いやりへの感謝の言葉が書かれた「思いやりハート」が掲示された。それを読んでいいと思った児童から「いいね！ドットシール」が貼られた。また，運営委員から毎日の給食時には各学級の「思いやりハート」が放送で紹介された。

3 研究の成果

- (1) 今年は新型コロナウイルス感染拡大のため，学校や地域で行う行事の多くが中止となった。それでも，実施できた体験を通して相手を思いやる気持ちを育むように努めてきた。また，学校生活全般を通して友達との関わりの中で相手を思いやって行動したり，助け合おうとしたりする心が少しずつ育ってきている。挨拶運動はできなかったが，「お先にあいさつ」を目標に掲げ，日々実践することによって自分から挨拶をする児童が増えてきている。
- (2) 地域の行事の多くも中止になったが，その中でもふるさと大久保の自然や人々，町並みについて調べることによって，大久保のよさを再認識すると共に地域に住む人々を大切に作る心が育つように努めてきた。
- (3) 人権集会を通して，友達や家庭，周りの多くの人々に支えられていることを再確認し，感謝の気持ちをもつとともに思いやりの心を育むことができた。

II 今後の課題

- 1 思いやりの気持ちは育ってきているが，「軽い気持ちでのからかい」や「みんながやっているからやってしまう」といった判断力の乏しさも感じられるので，その場の判断力と実践力の向上を図っていきたい。さらに，今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため，中止となった行事が多かった。今後状況に応じて，文部科学省監修の「感染症による差別や偏見をなくす」の教材を活用し，人権感覚の育成も図っていきたい。
- 2 人権に関する理解と認識を高め，指導力の向上を図る教員研修をさらに充実させたい。

III 人権コーナーの設置の様子

